

日露修好150周年記念回航事業【参加者の声】



※右から2人目。ウラジオストクにて。

日本ロシア学生会議
上智大学ロシア語学科3年
芹澤祐美

日露修好150周年回航事業の10日間で、私はたくさんのものを得ることができました。船上での文化交流では、ロシアの伝統的な舞踏や音楽に触れることができました。また、ゆかりの地を訪れながら、日本とロシアの交流の歴史を学ぶことができました。今まで体験したことのない船での生活も、初めは慣れませんでした。最終日には、下船したくないほどでした。そのような充実したプログラムを通して、私は大切な友人を得ることができました。これは、回航事業に参加して最も良かったと思うことです。

私は初め、自分のロシア語が通じるだろうか、ロシア人とすぐに打ち解けられるだろうかなどいろいろな不安がありました。しかし、そんな心配はすぐに解消されました。ロシア人は皆人懐こく、私たち日本人に一生懸命話しかけてくれました。私も初めはつたないロシア語で、自己紹介程度のことしか話せませんでした。様々なプログラムを通して、もっと彼らと仲良くなりたい、もっといろいろなことについて話したいという気持ちが強くなりました。そして私たちは毎晩、お互いの国の文化のこと、家族のこと、普段の生活のことなどについて話しました。言葉がうまく伝わらないときもありましたが、いろいろな例を挙げたり、別の言葉で言い換えたりしながら、何とか理解し合おうと努力しました。その時間は本当に楽しく、寝る時間も惜しいほどでした。10日間という短い期間に、お互いの気持ちが通じ合えたということは、何よりも嬉しいことです。

回航事業が終わってから彼らに会えないことはとても寂しいですが、私たちはメールで交流を続けています。この交流は、私のロシア語の勉強に対するモチベーションにもなっています。そして、ロシア人に文化や歴史など日本のことをしっかり伝えられるように、自分の国についてもっと勉強しなければいけないと思っています。これからも、今回得た友達を大切に、交流を絶やさないことが、日露関係の発展に繋がるだろうと思っています。